



6月も半ばとなりました。梅雨そのもの、というようにぐずついた日が続いています。子どもたちは雨のやみ間をみつけて、園庭で元気に遊んでいます。また、晴天の日もありますが、真夏のような暑さの中でもお構いなしで、遊びまわっています。子どもたちのパワーに脱帽です。

ところで、今週から年少以上の子どもたちはセーラー服での登校になりました。夏らしさを感じます。

○ 運動会、応援ありがとうございました。

13日(土)に予定どおり日向夏ドームで運動会を開催することができました。新型コロナウイルス感染拡大を気にしつつ、準備を進めてきましたが、無事に実施できてほっとしています。

当日、子どもたちは、これまでの練習の成果を精一杯発揮してくれましたが、観客が多く、いつもと違う雰囲気戸惑ったのか、かけっこでは転ぶ子どもが多かったのに驚きました。子どもたちなりにプレッシャーを感じたのかもしれませんが。

会場内では、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、3密を避けるため1家族毎に2m四方のスペースを設定させていただいたり、観覧スペースでの入れ替わりにご協力いただいたりしました。保護者の皆さんには、運営へのご協力と子どもたちへのたくさんの応援、ありがとうございました。

また、保護者の会の役員の方、おやじの会の皆さんにもお手伝いをいただきました。おかげで当日の運営や後片付けなどスムーズに行うことができました。感謝申し上げます。



○ 「お話の部屋」がありました。

15日(月)の給食後、年少以上のクラスで保護者の会の読み聞かせ部会の皆さんが読み聞かせをしてくださいました。子どもたちは熱心にお話に聞き入っていました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で開始が遅れていましたが、ようやく実施することができました。読み聞かせをくださった保護者の皆さん、ありがとうございました。



○ 水害想定避難訓練を行いました。

16日(火)の午前、清武川が大雨で氾濫したとの想定で避難訓練を行いました。子どもたちは、あらかじめ各クラスで担任から水害の際の避難の仕方についての話を聞き、私の放送を聞いてから、静かに2階ホールに避難しました。3歳未満の子どもたちも保育者と一緒に落ち着いて避難することができました。

本園は西側から北側・東側にかけて清武川が、南側には岡川が流れており、川の氾濫への備えも必要です。子どもたちへの意識付けもしていきたいと思っております。



○ 感染性胃腸炎に注意しましょう。

本日、れんらくアプリでもお知らせしましたが、0歳児・1歳児クラスに感染性胃腸炎で休んでいる子どもが数名います。園内での感染なのか、現在調査中です。園では、食事の前の手洗いの徹底や、保育室や玩具の消毒を徹底するなど、感染が拡大しないよう取り組んでいます。もし、家庭において子どもさんに軟便や下痢症状が見られた場合は、便を持って小児科受診をしていただきますようお願いいたします。受診されて感染性胃腸炎と診断された場合は、速やかに園までお知らせください。よろしくお願いいたします。

なお、県内においても感染性胃腸炎の感染者が増加傾向にあるようです。本紙No.10でも書きましたが、テイクアウトしたものの取り扱い方や、調理する際は十分加熱するなど、ご注意ください。

○ 土曜日保育の登録は期日までに必ずしてください。

土曜日の保育については、あらかじめその週の木曜日の23:59までにアプリで登録いただくようお願いしていますが、登録をし忘れて、前日の金曜日に電話で連絡をしてこられることがあります。これまでお知らせしていますように、土曜日の保育については、登園する園児数に応じて職員の配置を決めています。そのため、事前の登録なしでの利用があると、十分な保育ができなくなったり、給食やおやつのお食数が不足したりします。

土曜日の保育を希望される場合には、必ずその週の木曜日までにアプリでの登録をお願いします。職員に事前に土曜日の保育について相談された場合も、必ず登録をお願いします。なお、土曜日の保育希望の登録は金曜日になるとアプリ登録できませんので、ご注意ください。

○ 書籍のご紹介

1か月ほど前のことですが、5月17日付けの宮崎日日新聞の「ひと」欄が目にとまりました。

橋口亜希子さんという方が紹介されていました。「発達障害の息子を育てた経験を著書にした」方だそうで、その著書は「そのママでいい」でした。息子さんが小学1年生の時に発達障害（注意欠陥多動性障害（ADHD）とアスペルガー症候群、学習障害（LD））だと診断され、それからの子育てを綴られた内容です。息子さんは現在25歳で大学を卒業し、営業職として働いており、橋口さんは「こんな未来が来るなんて、昔の私には想像もできなかった」と語られています。

気になりましたので、早速購入して読みました。一人の母親としての立場から、子育ての苦労や悩み、喜びなどを率直に書かれていました。専門書的で堅苦しい内容ではなく、読みやすいものでした。当事者でなければ分からない、気づけないようなことも書いてあり、「なるほど、そうなのか」と考えさせられたり、気づかせられたりすることがありました。私自身、10数年前から小学校において、授業中落ち着きや集中力がなかったり、集団の中で一緒に行動できなかったりする子どもが増加しているのが気になっていました。それまでも、知的発達の遅れのある子どもや情緒が不安定な子どもはいましたが、割合としては今と比較してずいぶん少なかったと思います。医学の発達でこれまで見過ごされてきた子どもたちが明らかになってきたのかもしれませんが、とにかく、今、自分の感情をうまくコントロールできなかったり、友達と一緒に仲良く過ごすことができなかつたりして苦しんでいる子どもや、そのような子どもを育てることに悩んだり苦しんだりしている保護者がいます。教育・保育に関わる私たちとしても、そのような子どもたちや保護者の悩みや苦労を少しでも軽減できるよう努めていきたいと思っています。

そのような点からも、本書は一読してみる価値はあると思います、ご紹介させていただきました。

書籍名	そのママでいい ～ 発達障害の子を育てるあなたに贈る43のエール ～		
著者	橋口 亜希子	監修	田中 康雄
出版社	中央法規	定価	1,600円（税別）